

方法

- 対象・時期・仮説
- 尺度について

対象・時期・仮説

- 対象: **北部九州の公立全日制普通科高校**
2年生 347名
- 時期: 2023年 8月 (アンケート)
- 仮説:

卒業後の学びや職業に関する目標が明確である生徒の方が、自己理解力や職業理解力が高いであろう

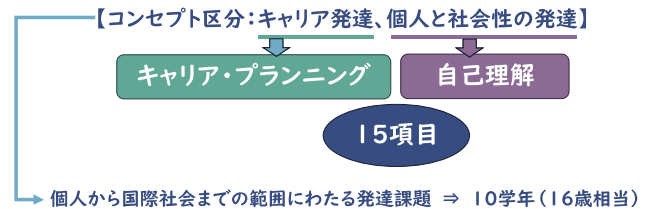
尺度について

- 職業理解力
「キャリアデザイン力尺度」(三川・石田・神田・山口, 2017)の、
下位尺度「職業理解力」(6項目)

- 1 いろいろな職業について知っている
- 2 いろいろな職業について、それぞれどのような進路をとれば、その職業につけるか知っている
- 3 いろいろな職業について、それぞれどのような能力や知識が必要か知っている
- 4 いろいろな職業が、それぞれ社会でどのように役立っているか知っている
- 5 将来、自分の役に立つ資格について知っている
- 6 職業を選ぶとき、重視したいことが分かっている

尺度作成について

- ミズーリ州包括的ガイダンス・カウンセリングプログラム(西山, 2014)のうち、



尺度作成について

- ミズーリ州のガイダンスカリキュラムの学年別発達課題

分野	OL-9 (中学3年生)	OL-10 (高校1年生)	OL-11 (高校2年生)	OL-12 (高校3年生)
A. 自己概念	自己概念を形成するための必要なスキルを発展させる。DOR: レベル3	自己概念を形成し、維持するために必要なスキルを発展させる。DOR: レベル4	自己概念を形成し、維持するために必要なスキルを発展させる。DOR: レベル4	自己概念を形成し、維持するために必要なスキルを発展させる。DOR: レベル4
B. 人々における役割のバランスをとる	家庭・学校・地域コミュニティの役割を担う責任を学ぶ。DOR: レベル3	家庭・学校・仕事・地域コミュニティの役割のバランスをとる。役割や責任は変化する。DOR: レベル3	家庭・学校・仕事・地域コミュニティの役割のバランスをとる。役割や責任は変化する。DOR: レベル3	家庭・学校・仕事・地域コミュニティの役割のバランスをとる。役割や責任は変化する。DOR: レベル3
C. 多様な職業社会に貢献する	学校社会に貢献する一員となるため、生徒個人が果たすべき役割を認識する。DOR: レベル3	一員となることに役立つ活動をする。DOR: レベル4	一員となることに役立つ活動をする。DOR: レベル4	一員となることに役立つ活動をする。DOR: レベル4

⇒ 定量的評価ができる行動レベルの質問項目へ改変

- 自分のよさや強みを生かせる場面を見出し、行動に生かすことができる
- 家庭・学校・仕事と地域社会の役割や責任に優先順位をつけてバランスよく務めることができる
- 文化や考えの異なる人とも関わり、自分ができる活動を見つけて参加できる

結果と考察

- 尺度検討の因子分析
- 仮説の検証
- 集団の傾向
- 今後の実践上・研究上の課題

尺度検討の因子分析

「キャリア発達」(6項目) ⇒ **キャリア・プランニング能力**

探索的因子分析(最尤法、プロマックス回転) ⇒ 2因子

第1因子 情報の利活用 ($\alpha = .894$)

進路検討への情報活用

第2因子 学校生活における役割・能力の理解 ($\alpha = .763$)

学校生活を充実させる役割と能力の理解

※ 因子間相関は .746

尺度検討の因子分析

「個人と社会性の発達」(9項目) ⇒ **自己理解能力**

探索的因子分析(最尤法、プロマックス回転) ⇒ 2因子

第1因子 社会人としての自分の行動 ($\alpha = .891$)

自身の向社会行動

第2因子 自身を社会に活かすための適切な行動の選択 ($\alpha = .846$)

自身の行動選択

仮説検証へ

※ 因子間相関は .768